

Network Security Forum 2018

2018年1月24日（水）、東京・ベルサール神保町にてJNSA主催シンポジウム「Network Security Forum 2018」が開催されました。サイバーセキュリティ戦略本部、総務省、経済産業省、独立行政法人 情報処理推進機構のご後援のもと、当日はのべ267名の参加者をお迎えし、盛況のうちに開催されました。

本セミナーでは、情報セキュリティ分野における時事に即したトピックについての講演、JNSAの部会、WG活動におけるテーマを中心にセッションを展開しました。

基調講演として総務省谷脇康彦審議官をお招きし、ご講演いただきました。また特別対談として、WHITE MOTION代表である蔵本雄一氏とJ-Auto-ISACメンバーによる、昨今話題となっている自動車のIoTに関する対談を実施いたしました。午後からは二つのトラックに分かれ、JNSAの各活動成果に関連した講演、「ベンダー各社が予測する、2018年の脅威」と題して、脅威予測を発表されている複数のベンダーによる2018年想定される脅威の動向やその対応についてのパネルディスカッションも行いました。

各講演の資料（一部を除く）はJNSAのWebサイトで公開していますのでぜひご覧下さい。

<http://www.jnsa.org/seminar/nsf/2018/pro.html>



NSF2018 基調講演の様子

Network Security Forum 2018 <プログラム>

トラック1 (Room1+2)

【S1 基調講演】10:00 ~ 10:50 (50分)

データ主導社会とサイバーセキュリティ

総務省 政策統括官 谷脇 康彦 氏

=== 10:50 ~ 11:00 休憩 ===

【S2 特別対談】11:00 ~ 12:00 (60分)

自動車産業が歩む「セキュリティ」と「セーフティ」の道

合同会社 WHITE MOTION 最高経営責任者 (CEO) 蔵本 雄一 氏

J-Auto-ISAC 井上 弘敏 氏 (本田技研工業株式会社)

山崎 雅史 氏 (マツダ株式会社)

中島 一樹 氏 (トヨタ自動車株式会社)

=== 12:00 ~ 13:00 昼休み ===

トラック1 (Room4+5)

【A1】13:00 ~ 14:00 (60分)

内部不正 WG 招致講演「人間の意思決定の神話と現実」

長瀬 勝彦 氏 (首都大学東京 教授)

=== 14:00 ~ 14:10 休憩 ===

【A2】14:10 ~ 14:50 (40分)

効果的なゲーム教育のための Tips

長谷川 長一 氏 (株式会社ラック/ゲーム教育 WG リーダー)

=== 14:50 ~ 15:00 休憩 ===

【A3】15:00 ~ 16:00 (60分)

サイバーセキュリティ・IoT・トラストについて
～日本トラストテクノロジー協議会発足～

1. サイバーセキュリティに求められるトラストとJT2Aの活動

手塚 悟 氏 (慶應義塾大学大学院政策・

メディア研究科特任教授/JT2A 代表)

2. IoTに求められるトラストとJT2Aの活動

松本 泰 氏 (セコム株式会社 IS 研究所/

PKI 相互運用技術 WG リーダー/JT2A 副代表)

3. 日本トラストテクノロジー協議会の概要

小川 博久 氏 (電子署名 WG サブリーダー/

リモート署名 TF リーダー/JT2A 運営委員長)

=== 16:00 ~ 16:10 休憩 ===

トラック2 (Room1+2)

【B1】13:00 ~ 13:40 (40分)

セキュリティ対応組織力を上げるコツ
～成熟度の可視化と、情報共有の心得～

阿部 慎司 氏

(NTT セキュリティ・ジャパン株式会社/

ISOG-J セキュリティオペレーション認知向上・普及啓発 WG リーダー)

【B2】13:40 ~ 14:10 (30分)

IoT セキュリティ早引きガイド解説

松岡 正人 氏

(株式会社カスペルスキー/IoT セキュリティ WG リーダー)

=== 14:10 ~ 14:20 休憩 ===

【B3 ミニシンポジウム】14:20 ~ 15:50 (90分)

「社会活動部会で勝手に予測する、
どうなる2018年のセキュリティ」

司会: 丸山 司郎 氏

(株式会社ベネッセインフォシエル/社会活動部会長)

コメンテーター:

鶴飼 裕司 氏 (株式会社FFRI 代表取締役社長)

下村 正洋 氏 (株式会社ディアアイティ 取締役会長)

西本 逸郎 氏 (株式会社ラック 代表取締役社長)

丸山 満彦 氏 (デロイト トーマツ リスクサービス株式会社

代表取締役社長)

15:50 トラック1 === 終了 ===

トラック1 (Room4+5)

【B4 パネルディスカッション】16:10 ~ 18:00 (110分)

「セキュリティプロフェッショナル誕生秘話」～高度セキュリティ人材の育成方法はあるのか～

モデレーター: 与儀 大輔 氏 (NRI セキュアテクノロジーズ株式会社)

パネリスト: 新井 悠 氏 (トレンドマイクロ株式会社)

岩井 博樹 氏 (デロイト トーマツ サイバーセキュリティ先端研究所)

辻 伸弘 氏 (ソフトバンク・テクノロジー株式会社)

寺島 崇幸 氏 (株式会社ディアアイティ/SECICON 副実行委員長)

JNSA 賀詞交歓会・JNSA 賞表彰式のご報告

賀詞交歓会

恒例のJNSA賀詞交歓会は、2018年1月24日（水）、東京・ベルサール神保町にて開催されました。約150名の方にご参加いただき、大変盛況な会となりました。

冒頭、JNSA副会長の中尾 康二氏より開会の挨拶を申し上げ、来賓としてお招きした内閣官房内閣サイバーセキュリティセンター副センター長の内閣審議官 三角 育生氏、総務省政策統括官（情報セキュリティ担当）谷脇 康彦氏、経済産業省大臣官房 サイバーセキュリティ・情報化審議官 伊東 寛氏よりご挨拶をいただき、独立行政法人情報処理推進機構 理事長 富田達夫氏による乾杯のご発声のもと、開宴しました。

JNSA 賞 表彰式

歓談の後、今回で12回目を迎えた毎年恒例のJNSA賞の表彰式が執り行われました。各賞の受賞者をご紹介後、中尾副会長から表彰状と記念の盾、副賞が授与されました。

受賞者と受賞理由は以下の通りです。受賞者の皆様、おめでとうございます。

個人の部（2件）

◇ トラストセキュリティ関連技術普及の組織立ち上げに尽力し、JNSAの活性化に大きく貢献

○ 小川 博久 氏（電子署名WG/リモート署名TFリーダー／みずほ情報総研株式会社）

2016年度のJNSA電子署名WGの活動において、WGメンバに加え、電子認証局会議、タイムビジネス協議会、JIPDEC等の団体メンバをとりまとめてリモート署名調査研究に係る報告書を作成したことに引き続き、2017年度には電子署名WG/リモート署名TFのリーダーとして、各団体、省庁を巻き込んで検討を進めることでリモート署名ガイドラインを策定した。また、将来のトラストセキュリティ関連技術を検討・標準化・普及するための組織「日本トラストテクノロジー協議会（JT2A）」の立上げに尽力し、セキュリティITベンダのみでなくユーザ企業の会員取り込みのための仕掛けを創出することなどによって、JNSAの知名度向上や活動の活性化に対して極めて大きな貢献があった。

◇ 海外進出支援を進めるとともに海外での活動活性化に尽力し、JNSAの知名度向上に大きく貢献

○ 一宮 隆祐 氏（海外市場開拓WGリーダー／日本電気株式会社）

JNSA海外市場開拓WGリーダーとして、WG運営に尽力した。今年度7月にシンガポールで開催された展示会「INTERPOL World 2017」では、ジェトロの支援を受けて実施したJapan PavilionにてJNSAブースのサポートやレセプションパーティの運営などに尽力し、多数の記事に取り上げられるなど大きな成果を上げた。同年11月のアブダビ視察団では団長を務め、各訪問先との現地打合せの陣頭指揮をとり、今後のUAEへの進出に関して有益な情報を得ることに貢献した。

また、サブWGでは、これから海外進出を検討する中小企業等にとって非常に有益な情報となる海外進出マニュアルの作成を進めており、JNSAの活動の活性化と知名度の向上に大きく貢献した。

ワーキンググループ (WG)の部 (1件)

◇ 情報セキュリティ教育を波及させ、JNSAの社会貢献と知名度向上に大きく貢献

○ 教育部会 ゲーム教育 WG(WGリーダー：株式会社ラック 長谷川 長一 氏)

アナログゲームというこれまでJNSAにて注目されていなかった媒体、「セキュ狼」カードゲームと「マルコン」ボードゲームを成果物として完成させ、これまでアプローチできていなかったITの知識をほとんどもっていない層、特に若年層に対しJNSAに対する興味関心を吸引するきっかけをつくりだした。

また、これら成果物を活用した活動による実証実験を繰り返し実施することで、ファシリテーター育成が行われ、ゲーム教育WGによる主催ではない、草の根活動として同WGの成果物を使用したゲーム教育イベントが全国各地で開催されている。

これら一連の活動は、WGが掲げている「ゲーム」の力を活用し、情報セキュリティ教育を波及させるとの目的達成にむけ大きく貢献するとともに、JNSAの知名度向上や活動の活性化に多大の貢献を果たしている。



JNSA 賞受賞者の皆さん

イベント開催の報告

「クロスボーダー時代におけるアイデンティティ管理セミナー」を開催

JNSA 標準化部会 アイデンティティ管理WGリーダー
日本電気株式会社 宮川 晃一

JNSA アイデンティティ管理WGが主催する、「クロスボーダー時代のアイデンティティ管理セミナー」がINFORIUM 豊洲イノベーションセンターにて行われました。

当日は80名ほどの聴衆の中、デジタルアイデンティティの幅広いテーマについて、各種セッションが繰り広げられました。

- 日 時：2018年1月26日（金）14:00～18:30
- 場 所：NTTデータショールーム INFORIUM
- 主 催：特定非営利活動法人日本ネットワークセキュリティ協会（JNSA）
標準化部会 アイデンティティ管理WG
- 協 力：株式会社NTTデータ
- 講演資料：<http://www.jnsa.org/seminar/2018/0126/>

【概 要】

「アイデンティティ管理WG」ではこれまでのWG活動の成果を広く知っていただくため、不定期に独自のセミナーを開催しています。

今年度は「クロスボーダー時代におけるアイデンティティ管理」をテーマに開催いたしました。近年、働き方や企業/個人、国、業界など様々なものが変化して、その境界（ボーダー）があいまいになる中で、ワークライフバランス、セキュリティ、コンプライアンスを確保する上でアイデンティティがなすべき役割が大きくなってきています。

このような時代に求められるアイデンティティ管理について、各セッションを通して幅広い内容を発表いたしました。以下、セッション毎に実施した概要を簡単にご報告いたします。

【A-1】（開会のご挨拶）「クロスボーダー時代のID管理とは」

宮川 晃一 氏（日本電気株式会社／アイデンティティ管理WGリーダー）

最初に開会のご挨拶から始まり、WGの今までの活動をご紹介いたしました。次にクロスボーダー時代の意味を解説し、通常「クロスボーダー」と言う言葉は「国際間」という意味で使われることが多いがネットワークや個人／企業、人／モノと言った関係性も含めたものと説明しました。その中でどのようにアイデンティティを管理すべきかと言うことが本日のセミナーの主旨となっていることを解説いたしました。



【A-2】（講演）「コンシューマIDのエンタープライズ領域での活用」

富士栄 尚寛 氏（伊藤忠テクノソリューションズ株式会社 西日本システム技術第2部 部長代行）

通常、FacebookやTwitter等のコンシューマのIDをエンタープライズに適用して、利用することは考えにくいことですが、ユーザの利便性を考慮すると今後はBYOIDと言った発想になるのは必然的かもしれません。本セッションの中ではエンタープライズIDの求められる保障レベルについて整理し、コンシューマのIDの適用シナリオをLINEを例に解説いただきました。



【B-2】「GDPRをきっかけに考えるグローバルなアイデンティティ管理」

北野 晴人 氏 (デロイト・トーマツリスクサービス パートナー)

本年5月25日からGDPR(EUデータ保護指令・一般データ保護規則)が施行されることからグローバル関連企業は各種対応に追われている状況があります。

その中において、グローバル化に必要な個人データ(人)に対するガバナンスの考え方を解説いただき、アイデンティティ管理は統合をめざすITの中でセキュリティの要となり、かつ合理化、コスト削減、コンプライアンスなどに有用な基盤となるとご説明をいただきました。



【A-3】「クロスボーダー時代におけるデジタルアイデンティティの活用、及びそのセルフコントロールとトラストの両立実現に向けて」

桑田 雅彦 氏 (日本電気株式会社 IoT基盤開発本部 ソフトウェアアドバンストテクノロジスト(サイバーセキュリティ))

個人のデジタルアイデンティティ情報(個人データ)は様々な形に加工され利用用途も様々になってきています。クロスボーダーな時代において、それがどこに向かっていくのかを最初に解説いただき、個人のデジタルアイデンティティ情報の結合・融合・分離に係るメリット・デメリットをご説明いただきました。

その上で、その課題に対する一つの解決策を提示いただき、活用の仕組みについての提言をいただきました。



【B-3】「クロスボーダー時代の認証技術と海外・国内の動向」

八束 啓文 氏 (EMCジャパン株式会社RSAシステムズ・エンジニアリング部 部長)

木村 優一 氏 (ジェムアルト株式会社 IDP事業部 ディレクター OEM & グローバルパートナー)

佐藤 公理 氏 (エントラストジャパン株式会社 シニアテクニカルセールス コンサルタント CISSP/CISA/CISM)

最初にクロスボーダー時代におけるユーザ認証の重要性について解説をいただき、OTPやPKI、生体認証のトレンドについて解説いただきました。

また、講演各社における多要素の事例についてご説明いただきました。コロンビア政府(金融機関)やNASAジェット推進研究所の事例などとても興味深い事例でした。



イベント開催の報告

【A-4】「ソーシャル名寄せの恐怖 ～あなたの情報、知らないうちにこんなことに～」

星野 亮 氏 (株式会社NTTデータ セキュリティ技術部 課長)

最初に「名寄せ」の意味について解説いただき、よい意味合いと悪い意味合いがあることを整理していただきました。次に「SPOKEO」と言う個人情報の検索サービスの紹介がありました。SNSの公開情報や電話帳などから名前やメールアドレス、電話番号や住所などが検索できるものです。

発表者自身が実際に有償サービスに申し込んで生々しいリアルな体験を発表していただき、個人のデジタルアイデンティティ情報がいかに拡散しているかを感じ取ることができました。また、拡散させないためにはどうしたらよいかと言うことを解説いただきました。



【B-4】「ブロックチェーンが実現する(かもしれない)未来のIDとID管理基盤の姿」

貞弘 崇行 氏 (株式会社アイピーキューブ ITコンサルタント)

今後未来のアイデンティティ管理基盤として、ブロックチェーン技術を利用した「Self-Sovereign Identity (SSID)」について解説をいただきました。

ブロックチェーンと言うと、通常はビットコインをはじめとする仮想通貨を連想しがちですが、非金融分野での活用方法の1つとして大変興味深い事例かと思えます。

SSIDが今後どのような広がりを見せるのか今後もWGではウォッチしていきたいと思えます。



【A-5】(特別講演)「改正個人情報保護法・GDPRとID情報」

湯浅 壱道 氏 (情報セキュリティ大学院大学学長補佐/教授)

特別講演として、湯浅先生より個人情報保護法の改正ポイントとGDPRについて解説いただきました。その後、アイデンティティ情報が漏えいした場合の対応や報告義務および罰則など、諸外国を例にご説明いただき今後日本がどのような方向に向かうのかをご説明いただきました。大変参考になりました。



【A-6】(パネルディスカッション)

「エキスパートがばっちり予測! クロスボーダー時代に求められるアイデンティティ管理とは」

※モデレーター: 山田 達司氏 (株式会社エヌ・ティ・ティ・データ|シニアスペシャリスト (セキュリティプリンシパル))

※パネリスト: 工藤 達雄氏 (NRIセキュアテクノロジーズ株式会社|上級ソリューション・アーキテクト)

下道 高志氏 (日本オラクル株式会社|ソリューションディレクター 工学博士, CISA, CISM)

中島 浩光氏 (株式会社マインド・トゥー・アクション|代表取締役)

富士榮 尚寛氏 (伊藤忠テクノソリューションズ株式会社|部長代行)

最後のセッションとして、アイデンティティ業界では知らない人はいないと言われるメンバーでパネルディスカッションを行いました。最初にモデレーターの山田さんから本パネルの主旨についてご説明いただきました。

次に工藤さんからは今後のID管理に係る取り組みとして「同意管理」「関係性管理」「自己主権型アイデンティティ管理 (SSID)」について解説がありました。下道さんからは認証とアイデンティティの関係性について説明があり、特に「SAML認証」と言われることの気持ち悪さのご説明が印象的でした。中島さんからは「ももいろクローバーZ」の応援衣装での登場に度肝を抜かれましたが、認可の説明する題材として「ももいろクローバーZ」のファンクラブサイトを例にわかりやすく解説をいただきました。山田さんからはパネリストからのお話をもとに、今回の「クロスボーダー時代のID管理」について必要な技術や法規制などエンタープライズの視点からパネラーにするどい質問していただき、白熱した討論となりました。



【本セミナーと通して】

今回はテーマが広がったこともあり、内容が多岐に渡りましたが今後のアイデンティティ管理の課題や向かう方向性については少し道筋が見えてきた気がしました。

本セミナーで収集したアンケート結果も満足度が高いものがありましたので今後も不定期ではありますがWG主体の公開セミナーは企画していきたいと思えます。

なお、本セミナーの開催にあたりご協力をいただきました皆様に厚く御礼を申し上げます。

セミナー終了後の懇親会は「ファミリーマート」づくしと言うことで「おでん台」をまるごとお借りして盛大に開催されました。予算も安く済みますのでお勧めです。

